

## 第1回徳島県企業局事業のあり方懇話会議事概要

I 日時 平成19年12月13日(木) 13時30分から15時40分

II 会場 県庁10階企業局会議室

III 出席者

<委員>

横畠康吉(座長)(敬称略、以下同)、井関佳穂理、梯 学、高畑富士子、  
竹中淳二、中 央子、藪田ひとみ

<企業局>

河野企業局長、谷口次長、黒田次長(経営企画担当)、佐和次長(工務担当)  
細井総務課長、井関経営企画室長、佐野電力課長、小田工務課長

IV 会議次第

1. 開会

2. 議事

(1) 座長の選任について

(2) 懇話会設置の趣旨等について

(3) 企業局事業の概要及び課題等について

(4) その他

【配付資料】

資料① 「徳島県企業局事業のあり方懇話会」設置要綱

資料② 説明用資料(パワーポイント用資料)

資料③ 徳島県の公営企業<平成19年度>

資料④ 平成19年度 企業局の事業概要

V 議事概要

議事(1) 座長の選任について

・委員の互選により、横畠委員を座長に決定し、座長職務代理者に竹中委員を指名。

議事(2) 懇話会設置の趣旨等について

議事(3) 企業局事業の概要及び課題等について

・配付資料に基づき事務局から説明を行い、質疑応答。

<質疑応答>

【電気事業】について

[委員]

電力供給量がここ3年ほど減っているというのは、雨の降る量と関係しているのでしょうか。それとも、ある程度計算の上で調整をしているのですか。

(企業局)

水力発電は、天気によって左右される発電方式ですので、渇水状態が頻発した年などによって、増減があります。

[委員]

最初のダムができて50年になるということですが、ダム施設の耐用年数はどれくらいで計算されているのですか。また、メンテナンスには、どれくらいの金額がかかるものなのですか。

(企業局)

ダムは、建設時には「100年はもつように」ということで建設されています。法定耐用年数でいいますと、土木構築物に関しては、57年という年数となっています。

しかし、法定耐用年数の約2倍くらいは使えますので、実際にも100年は十分もつだろうと考えています。また、適切にメンテナンスを実施すれば、更に長くもつ可能性もあります。

メンテナンスに要する費用については、具体的に申し上げるような数字は持ち合わせていませんが、我々の電気事業も、本格的に実施するようになって、昨年度50年経過したわけですが、一つの折り返し点、区切りとして、さらに50年を、適切なメンテナンスによる健全経営に努めていきたい、と考えております。

[委員]

耐用年数にいたっては、自然災害での破損とかというのが、想定外でありますよね。

(企業局)

ダムそのものは、自然災害にも耐えられるような堅牢な構造物にできているのですが、機械設備などは、水害とか土砂崩れなどによって、思わぬ災害に見舞われるということは考えられます。

[委員]

先程、「卸電気事業者と卸供給事業者」、「みなし卸電気事業者終了後は市場競争の下に置かれる可能性がある」、という説明がありましたが、よくわからないので説明をお願いします。

(企業局)

これまでは規制分野ということで、卸電気事業は、認定されている事業者以外は、「卸売り」で電気を売れなかったのですが、電気事業法の改正により、「卸売り」も、他の電気事業者でもできるようになりました。

あわせて、電気の「卸売り」は、これまでは「卸電気事業者」一本だったわけですが、ここで二つに分かれ、200万キロワット以上の設備を持つ、J-POWERや日本原子力発電などの電気事業者については、従来通りの「卸電気事業者」となり、我々のような規模が小さな電気事業者については、電気事業者ではなく非電気事業者という扱いになり、これが「卸供給事業者」というようになりました。

ただ、そのまますぐに切り替えるというのでは、いろいろ問題があるということで、平成7年から、15年間は「みなし」で卸電気事業者と同様の待遇を与えるということになり、その期限が平成21年度までとなっています。

平成22年度からは、「卸供給事業者」という立場で、従来どおり四国電力に「卸売り」をすることもでき、また、四国電力の送電線を使い、需要家に直接電力供給していく「小売り」もできようになりますので、いわゆる「自由化」の対象となるということです。

[委員]

その「卸供給事業者」になると、どういう点で問題があるのですか。市場競争下に置かれた場合に、発電してるようなところというのは、県とか、電力会社とか、J-POWERくらいしか私たち思い浮かばないんですけど、市場競争下で、突然電気をつくると言っても、他にいろんなところで急にできませんよね。2011年以降、市場競争下でどんなことが問題として考えられるのですか。

(企業局)

平成21年度以降は、従来の「卸電気事業」という立場ではできない、ということは決まっているのですが、残念ながらはっきりした枠組みというのが決まっていないのです。

電力会社と長期の供給契約を結ぶことによって、従来通り卸供給をやっていく方法もありますし、電力の取引を行う電力取引所を通じて供給する方法もあります。また、四国電力の送電線を利用して、直接需要家に電気を売るということもできます。

ただし、現在の状態で比較しますと、卸供給以外の方法は、コスト的に非常に高くなりますので、現実的には難しく、今のところは、従来通り四国電力へ卸供給をやっていくという考えです。

(企業局)

もう一度、わかりやすく説明できるように、整理した方がいいですね。次回までに事務局で整理してください。

[委員]

那賀川の濁水の時に、ダムに堆積物がたくさんあって水が貯められない、という話をよくテレビで見ますが、どれくらい堆積物があるのですか、また、堆積物を捨てる場所がないから取れないとも言われてますが、どういう現状ですか。

(企業局)

簡単に言いますと、一つは取る問題、もう一つは取ったあと捨てる問題、この2つが大きなネックとなって、なかなかよい方策が見つからない、という状況です。

それと、総堆砂量が、何千万立米といった莫大な量で、県の事業では対応できないというような状況ですので、国にお願ひし、国の事業としてやっていく、というのが長安口ダムが直轄管理となった主な理由の一つです。

[委員]

基本的なことですが、水路式発電、ダム水路式発電、ダム式発電、それぞれどう違うのですか。

(企業局)

今後、現地視察がございますので、その時に説明させていただきたいと思います。

[委員]

地域への貢献ということでいろいろされていますが、資料館の年間利用者はどれくらいですか。

(企業局)

18年度で、1万人少々です。平成10年度から開館していて、平成18年度末の累計で約9万人弱、といったところです。

[委員]

電力の供給量で、平成17年が少し少ないように思われるんですが、何か理由があるのですか。

(企業局)

それは、大きな湯水がありまして、運転開始以来、過去最大の湯水でした。残念ながら、今年も、これに匹敵するような湯水がありました。

[委員]

経営の状況で、平成5年がピークで、収益がずっと、右肩下がりになっているのですが、先程説明された、単価が下がってきたというのが、この影響ですか。

(企業局)

資料の表が5年ごとで少しわかりづらいのですが、平成10年と15年の間で料金原価の算定規則が変わったために、利益が出にくいような算定式になっています。その影響が一番大きくて、平成12年からは年々利益率が低下してきている、という状況です。

[委員]

一部自由化が開始され、さらに下がる可能性があるのですか。

(企業局)

根本的には、電力自由化により、四国電力へ販売する電気料金も、下がっていますので、利益率も下がらざるをえないと、という状況です。

[委員]

費用の方は横ばい状況で、利益が下がってきていますよね。

(企業局)

発電量が横ばいですので、費用もほぼ横ばい、ということになります。水力発電の場合、輸入等はしませんので、原油市場の影響をまともに受ける火力発電のようなことはありませんので、このへんの費用が大きく増減するという要素は、考えにくいです。

[委員]

これは、人件費が多いのですか。

(企業局)

人件費率は、大まかに申しまして約40%です。

[委員]

グラフで見たら1億8千万円の利益があるんですけども、今後の見通しとしては、今後の単価の下落の状況によっては収支トントンもしくは赤字になる可能性があるのですか。

(企業局)

企業局では、総括原価方式という計算方式を採用してしまっていて、この方式では、原価に一定の利潤を積み増す、という形で原価計算ができます。ですから、適正な営業をやっているならば、必ず利益は出る、という構造は今後も変わらないと思いますが、電力自由化による影響で利益率の幅

はどうしても縮まってしまいます。

(企業局)

四国電力に、電気を売っているのですが、四国電力さんは、消費者に還元するということで、安く買いたい。我々企業局は、できるだけ利益を上げるために高く売りたい。その利益は国債の利回りぐらいを、自己資本に対する報酬率として認めてくれる、という非常に規制のかかった料金です。

利益を多く出そうとすると、四国電力さんとの交渉で認めてもらうか、経営の効率化をしていくこととなります。2年ごとに料金改定があるのですが、今年度がその改定のための交渉の年です。

[委員]

標準的な原価よりも効率的な経営を行ったら利益が増える可能性はあるということですか。

(企業局)

そうです。

[委員]

ただ、それを四国電力さんに言うと、また利益が出て、となって交渉の余地があるから、結局は一定以上の利益は出ないということですか。

(企業局)

その辺が非常に難しいですね。

(企業局)

平成12年度の規則の改正により、それまでの利益とそれ以降の利益の見方が変わってきました、その時点で大幅に利益率が落ちた、という状況があります。

#### 【工業用水道事業】について

[委員]

渇水時に取水制限をした場合、損害賠償を求められることはありますか。

(企業局)

損害賠償までではないのですが、工業用水の料金は、どれだけ利用するか、という契約水量で頂くということになっています。

契約水量分を渇水で送れなかった場合は、減免という制度があります。

ただ、渇水というのは災害ですので、契約水量の半分以下しか送れなかった場合に、そのまた半分をお返しますという仕組みとなっています。

[委員]

未売水というのは、水が余っているのだから売ったらいいと単純に思うのですが、工場の撤退という話はよく聞くのですが、なかなか誘致が難しいのですか。

(企業局)

企業の方でも水が大事だということで、設備を節水型にしていますし、また、水を何度も回収して使うといった努力もされていて、回収率は全国的にも高くなってきているので、追加で水が

必要というよりも、どちらかといえば、減量してほしいという声が強いです。

先程、責任水量ということの説明しましたが、工業用水道の設備全体を維持管理していかないといけないので、契約水量分の料金をお願いしていますが、例えば、特に大きな業種転換があり、その業種そのものに水は使わない、という場合には、減量も認めたことがあります。

企業局の担当者も、新たな給水先を求めて、営業をしているのですが、1日当たり何百m<sup>3</sup>、何千m<sup>3</sup>になると難しいものがあります。

最近、阿南工業用水道では、ユーザーさんが、工場を増設し、1日約4千～5千m<sup>3</sup>の使用量が増やされるなど、割と進んでいるのですが、吉野川北岸工業用水道の方は、水を大量に使う大きな工場が、なかなか期待できず、逆に減っているという現状です。空港整備でも工場用地ができますが、どのくらいの利用増が見込めるか、不明です。

[委員]

日本製紙が撤退するといった報道があった時に、一番に水の心配があるところだからということでは言われましたよね。

(企業局)

私の方もあまりそういうことがあってはならない、ということで、渇水対策として、昔ウナギの養殖に使っていた井戸を買い取って、非常時の時だけ運用する、地下水送水設備というのを造っています。

本来的に工業用水は地下水の塩水化を起こさないように造った施設ではありますが、工水ユーザーで、県内工業製品の36%の出荷額があるので、操業停止といったことにならないよう、最大限の水量を確保できる設備を造るなど、今後も努力していかねばならない、と考えています。

私どもだけでなく、商工労働部も工場誘致をするにあたって、水は十分ですといった話もしており、全庁的にいろいろ対策を講じているわけです。

[委員]

吉野川の地下水塩水化が、上流の方まで進んでいると同ったのですが。

(企業局)

吉野川の塩水化については、県ではかつて吉野川流域で新産業都市建設法に基づく地域指定により企業が立地しはじめ、最初は地下水を安く得ることができたので、井戸を掘って地下水を汲み上げた結果、地盤沈下、塩水化が進みましたが、その後、吉野川と那賀川流域の河川では、県で条例を作り、地下水の取水に制限を加えるようになりました。

そういう状況の中で、県も工業用水道を整備し、企業も地下水取水から工業用水に転換した結果、今の時点では那賀川も吉野川も地下水の塩水化は止まっていると聞いております。

[委員]

第十堰の近くまで塩水化が進んでいる、という話を聞きました。

(企業局)

最近では要綱ができ、地下水の規制をしていますので、現在の私の認識としましては15～20年ほど前からほとんど変わってない、と思います。その辺の資料は今度出したいと思います。

[委員]

ダムには、発電、洪水調整、渇水対策など、色々な役割がありますが、渇水に対しては、ある

程度天候の都合で仕方がない部分はあるのですが、具体的にどのような対策をしているのですか。

徳島といえば、素人考えではありますが、水が豊かな地域であって、吉野川に豊かな水が流れていて、どうして渇水が起こるのかが不思議でした。以前平成6年頃に発生した渇水の時でも、香川では水が足りないといっても、徳島市の私には、生活用水に対してはあまり渇水とを感じる機会がありませんでした。生活用水はライフラインなので、先に止められるのが工業関係となると思いますが、今後も起こると考えられる渇水についてどのようにお考えですか。

(企業局)

渇水についてですが、吉野川水系では、香川県で生活用水に支障が出ている時でも、徳島県では、現実的に生活用水等に余り支障がないという状況がありますが、これは、吉野川が高知県を水源として徳島平野に流れている一方、香川県には、香川用水として、吉野川から分水しているというところで、違いがあるわけです。

一方、那賀川水系では、工業用水などは取水制限をかけてますけど、下流の阿南市の水道用水というのは、那賀川水系の地下水を取水し、河川からは直接取水していませんので、渇水の際に利水者が集まって調整する取水制限の対象になっていないということで、阿南市の方は、特に水道用水で困ったということは、少ないと思います。

那賀川の場合には、工業用水とか農業用水が取水制限を受けることにはなりますが、やはり近年では雨が少なく、蓄えておくための長安ロダムでも、全ダム容量の2割弱の堆砂が進んでいるため、渇水ともなれば、取水制限の日数も延びるということになります。

渇水時の緊急的な措置として、地下水送水設備の整備や、長安ロダム予備放流設備の改良などを実施しています。「予備放流設備の改良」とは、ダムは取水口の位置が決っているので、ある一定の深さまでの水しか使えません。このため放流設備の改良をすることによって、これまでの取水口より下の水が使えるようにするというものです。

これらの実施により、制限の日数を少しでも短くするというような対応を現在しています。那賀川の利水安全度は3分の1ということで、3年に1回には渇水を起こすというような現状ですが、この4月から国直轄となり、堆砂も排除するといったことや、施設を作るということで7分の1、7年に1回渇水が起きるように、安全度を上げるための取り組みを国の方で今後、実施していくと聞いています。

[委員]

工業用水の料金単価ですが、10年来ずっと同額で、全国平均より低いのですが、工場を守ることも必要と思いますが、上げることはできないのですか。

(企業局)

これは、経済基盤のひとつなので、料金を上げることによって、工場の製品単価に跳ね返ることなどが無いよう据え置いてきています。

経営が順調にしている間はこのままで、と考えていますが、今後、大規模な改修が必要となった場合や、想定外のことが起こった場合などには、検討も必要となります。

現在のところできるだけ安い料金とすることが、県内企業の発展や雇用の拡大、ひいては税金も頂ける、といったことにもなるので、低めに押さえたいと考えています。

今後、耐震化の工事などを実施していくわけですが、これらの工事などがどこまで経営に影響していくのか、いろいろ計算しながら考えていかなければならないと思っています。

## 【土地造成事業】について

[委員]

土地造成事業では、西長峰工業団地が売れた後、新しく造成事業をやっていくのですか。

(企業局)

工業団地の造成計画を作るような場合には、知事部局の商工労働部で、検討することとなりますが、今のところ聞いていません。

県内でも、県営以外、市町単位でいろいろ工業団地を造成してきていますが、未売のところも多々あるのが現状です。

[委員]

西長峰工業団地は、平成5年に造成工事が完了して、今、平成19年なんですけど、安かったら売れるのですか。

(企業局)

最終の売却は平成9年の船場化成さんで、レジ袋などのメーカーさんですけど、それから10年余りが過ぎ、経済もバブルが終るなど、いろいろあってなかなか企業は来ていません。場所は、阿波市阿波町で、美馬市脇町に隣接しています。

その前には、水島プレスさんという自動車関係の部品などを扱うメーカーさんが立地しています。

私ども企業局は、造成して管理するという役割を担っていて、販売などはそれぞれの産業間のネットワークが必要ですので、商工労働部の方をお願いしています。単価はこちらで決め、販売先とかは商工労働部が決めるという、二元性になっており、調整をとりながら進めています。

引き合いは時々あるのですが、現在のところは売れていません。

単価が安ければ売れるのかもしれませんが、企業局では、造成単価というのがありますので、いくら地価が下落しても、その辺が難しいところです。企業経営されてる方は、損金出しても早く売ったらいいのでは、というお話もあるかと思いますが、その辺はなかなかはっきりと言えないところがあります。

[委員]

造成工事には、税金を使っているのですよね。

(企業局)

税金でなくて借入金です。税金は、企業局の事業そのものにはほとんど入ってません。全部企業債でお金を借りて、償還しながら、売りながら、事業を実施しているといった形です。

ただし、辰巳の大きな団地があるのですが、ここは非常に大きな投資額が必要だったものだから、県からお金を借りて、その時に金利を免除してもらった、ということがあります。そういう意味では、一般会計に助けてもらったという部分があり、全て自前で行ったとは、言いにくいところもあります。



## 【駐車場事業】について

[委員]

県の駐車場で、他に富田浜の駐車場がありますが、そこは県土整備部の管轄で、県として同じ駐車場経営をしているのに、なぜ他の部であったり、企業局だったり、何か理由があるのですか。

同じ事業をするのであれば、同じ部署で一括的にやった方が管理料も安いのでは、と思うのですが、その辺はどうなのですか。

(企業局)

想像ですが、やはり減価償却をするような大きな構造物がある場合は、企業局でしているのではないかと思います。富田浜の駐車場はたぶん、河川敷を利用してそのまま区画整理をするだけの駐車場だと思います。

また、富田浜駐車場の運営は、社会福祉協議会がやっていて、社会福祉との関連といたいきさつもあるのではないかと思います。

[委員]

松茂駐車場の場合、物産館は別の運営、乗り入れしてるバス会社も別ですので、使い勝手が悪い。バスの乗降にしても、降りるところと乗るところでは、すごく離れていて、物産館でチケットを買ってすぐに乗ろうしても、反対側まで歩道橋を渡って行かないといけない。乗り場が遠いので、駐車場が満車状態でもあったら、バスに乗り遅れたりしますよね。

また、バス乗り場側で待っていたら、バスが交通事情で遅れたりすることがあっても、スタッフがいないので、誰にも状況を聞けないですよ。それぞれ運営が、全部違うもので、情報も共有できていない。バスターミナルの駐車場という機能があって、利便性という部分では、駐車場だけでは機能しない訳ですよ。また、おみやげを買ったり、チケットを買ったり、バスの遅れだとか、より便利にバスが利用できる、という部分で、もっと事業としての一体化が必要だと思います。

(企業局)

とくとくターミナルは、パークアンドバスライドのバスの駅というイメージで造られましたが、バスの乗降場は国土交通省、それからおみやげやチケットを売っている物産館は商工労働部、また、駐車場が企業局、三つがセットでバスの駅の機能をしています。

それで、ターミナル建設計画の時には、上り車線側に造るのか、下り車線側に造るのか、という議論が当然されたはずなんです。現在の場所が、建設が容易だったと聞いています。

ただ、バス会社から言えば、上り便の時にターミナルを乗り場にすると、右折しないといけないため非常にロスができる、ということで、上り車線側に乗り場ができたようです。降りるのは逆にターミナル側になるのですが。

ですから、民間駐車場と比較される場合、乗るときに近いか、降りるときに近いか、というのも要素の一つとなっています。

[委員]

駐車場自体の利便性から行くと、乗る時と降りる時と、どちらに近いほうが便利か、という話で、もしかしたら民間駐車場は、まだまだ増えていくかもしれないので、ターミナル全体で一体化して考えていかないと、ビジネス的にも厳しくなっていく気がします。

【事業全般】について

[委員]

企業決算で言いましたら損益計算書とバランスシートがあって、損益計算書と貸借対照表がほしいワンセットになってるのですが、「企業局の概要」には、ワンセットで載ってなくて損益計算書だけですよね。

(企業局)

バランスシートは、決算の時には出していますので、次回には用意します。

[委員]

見る見ないというのではなくて、出す時には貸借と損益がワンセットになっているのですが、県の資料では、だいたい損益しかないですよね。何か理由があるのですか。

(企業局)

官庁会計に慣れてしまっていて、収支のわかりやすい損益計算書のみとなっているかもしれません。やはり、貸借対照表、バランスシートは、企業会計では、出すべきだと思いますので、今回はその形でさせていただきたいと思います。

[委員]

企業局ということで、一般の知事部局とは多少考え方が違うのでしょうか、今お話を聞いていると、かなり成熟してきた企業なのではないかな、と思っています。

今扱ってる商品が、電気、水、駐車場のサービスと土地で、全ての商品を何も今、企業局が一生懸命これから手を加えていかなきゃいけないものなのかな、という部分も多少ありますが、そのためにこういう会を開かれて、今後の見通しを、ということだと思いますので。

最近、企業年齢という言葉をよく聞くのですが、今現在企業局の年齢が人間の年齢にたとえて何歳くらいなのか、というのを、局長が社長ということであれば、ある程度頭に置いて企業運営をしていかないと、再投資をするにしても投資の仕方が全然変わってくるのではないかと、と思っています。

今日聞いただけでは私もよくわからないのですが、長期的なビジョンがあるのであればゆっくりとお聞かせいただければと思っています。